



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

## 私たちの町にもこんなしくみがほしいね

まちネット寄居では今年度、「わたしたちの暮らしの意識調査」を始めています。子育て世代の視点から、働き盛りの男性からの視点、近い将来高齢世代となる人たちの視点からと、いろいろな世代から気楽な井戸端会議を開いての問題提議です。第1回目は、7月8日子育て真最中のお母さんたちが集まり、それぞれの生活の中から日頃感じている不安、不満をドーンとぶつけてもらいました。参加者は8名。その概要を報告します。

### 週5日制の

#### ゆとり教育の実態は・

週2日間の休校はたくさんの時間を親子に与えてくれるはずだったのに、現実はお金を出してのお稽古事に追われるか全くの放任かの両極端が目につきます。地域の受け皿が不足していることもあります。普段の子どもたちの遊びに関しても、TV ゲームの弊害が大きく自然に恵まれていてもその中で遊ぶことがほとんどありません。親が不在のため遊びに行けない、お稽古事で時間がない、公園での遊びの制限など子どもたちの遊びはどんどん狭まり、集団遊びが出来ない状況が依然

続いています。また、登下校時の安全に不安を抱えるなど保護者の子育てのストレスは非常に大きくなっています。

また PTA 活動や地域ボランティア活動なども、それに係わる時間をお金に換算して考えてしまう人が多くなっています。今本当に、親、子ども心のゆとりがなくなっています。そんな中で人とのコミュニケーションのとり方がわからない子どもたちが増えていることが一番不安になります。

### 幼児を抱えているお母さんからこんな声が!

核家族のため普段年配の人との接触があまりない、子育ての不安や悩みなどへの心のケアがほしい。同世代の子育て仲間とのコミュニケーションがなかなかうまくとれない。かわせみ荘でやっている幼児クラブなどへもなかなか足が運べない。問題を抱えている人ほど孤立している実態があるとといいます。そして**行政はすぐに取りかかってください!**と切実なこんな声も。

幼児に急な発熱などは付き物です。乳幼児医療費の受給手続きをその場で病院対応してもらえよう行政での手続きの仕組み

を早く確立してほしい。また自主保育サークルに支援しますと広報していながら、せっかく立ち上げた保育サークルへの積極的な補助の姿勢がない。行政はもっと真剣に保育のサポートに取り組んでください。

日中、母子で生活する母親の不安、ストレスは大変なもの。母親の体調が悪くても幼児連れでは病院に行くこともできません。地域の中には是非、保育サポーター、ファミリーサポート事業をと切に願う声が聞かれました。

子どもは社会の宝、町の財産と言いつつ、なんと子育て環境の劣悪なことでしょうか。今、地域でも構造的にゆとりある子育てができない状態です。義務教育であっても親の経済的な負担は大きく、教育も、安全も、介護も皆お金で買う時代となっています。こんな状況では、5年後、10年後の不安は膨らむ一方です。行政に任せただけでは決して不安は縮小されません。こんな仕組みが、サービスが必要と様々な声が上がっています。私たちに今から準備できることを少しずつ整理していきましょう。

大北秀子

# 『指定管理者制度』が 着実に進んでいます

今流行の民営化の最先端でしょうか。民営化することにより、経費を削減することが第一の目的です。住民に向けたサービスは外に置かれたようです。

問題の一つは指定管理期間が2年から5年くらいが普通で、期間後はまた指定を受ける作業があることです。つまり、次に指定を受けられなければ自動的に職を失うことになる不安定な人間が増えることになるのです。不安はすべての面で悪です。

第二は、住民サービスですが、民間業者が受けるわけですから、収益を第一とした経営をしていくのは当然です。今までとサービスの内容が変化してくることが考えられます。良くなればよいのですが。実際、ある福祉施設では指定を受けるための検討中、利用者支援のことは全く話題にならなかったとのことです。競争に確実に勝つためには、サービス内容での競争は不確実で、経費削減第一です、当たり前ですよ。でも、その結果はどうなっていくのでしょうか。

\*指定管理者制度：県の「公の施設」の管理を民間事業者、NPOなどの団体に任せることです。国・県は『公の施設の管理について、住民サービスの向上と経費の削減を図ることを目的としている』と言っています。

遠藤仲男

## 便利より 優しい町がいい

第2回は、お父さんたち中心の言いたい放題の井戸端会議を7月30日に行ないました。その中のお二人に、気になっていることをメッセージしていただきました。

3年前に、70歳に近いご夫婦が見せた出来事が、今も強烈に脳裏に焼きついている。

夫を車椅子に乗せ、その夫の半分くらいのからだの妻が介助して、街中の段差のきつい、というより危険な歩道を通り抜けていた。この町の歩道は優しくない。ご夫婦お互いのストレスは想像に難くない。町の中心、信号を渡り一方通行の先は寄居駅。ご夫婦と信号が緑になるのを待つ。

「うまく押せ」「バカやろー」背後でそんな意味の夫の声を聞く。その瞬間、何かがつぶれる音。肉を強打したグニュッ! と。びっくりして振り向く。ほほを押さえてオドオドする妻。すごく悲しそうにうつむいた。車椅子の夫は真っ赤な顔。夫が妻を殴りつけたのだった。街中の青空の下で。

私の住む町は優しいか？

あれからずっと自問自答している。私の町はあたたかいのか？ 子どもたちに、東京なんかで暮らしていないで帰って来い、と自慢できるか？

普通の暮らしが、事故や病気などで人(例えばヘルパーさん)と物(例えば車椅子)の助けが必要になる例はたくさん見ている。

だからその保証はお金で、という時代の勝ち組になるための生き方を支援するのか(出来る人は良いが…)。

この先、5年間の町の仕組みづくりは人事ではない。高齢者や弱者が生活の質を維持できる制度が見えてこない。お城を復元するというようなお金の使い方ではない。寄居町に住民票を移したくなるような「人間に優しい」町へのインフラが見えない。

午前と午後2回でもいいから、公共諸施設とスーパーや娯楽施設経由、医療機関巡回ワゴンカー。電話連絡で巡回してくれる。これだけでも暮らしが元気づく人たちはたくさんいるはず。

「わが町は財政難でとても無理」。じゃあ、近隣の町と組んで仕組みを作ればいいじゃないか。活用度はグッと上がるはず。諸費用も折半。そのワゴンには車椅子が積める。

そんな仕組みが活用できたら多分、車椅子の夫の話し声を聞こうと、かがみこんだ妻を殴りつけるような光景はなかった、と思う。

吉田 勝

## 学習会レポート

# 身近な化学物質から子どもを守るには？

7月25日「環境ひろば」「生活クラブ寄居支部」との共催、県ネットの後援という形で開催されました。参加者23名。講師の佐藤禮子さんは千葉市立衛生短大講師の傍ら、「止めよう！ダイオキシン汚染 関東ネット代表」ほか様々な場で活動していらっしゃいます。三澤さんの手作り蒸しパンをいただきながら、終始和らいだ雰囲気での学習会でした。

「妊娠中に母体は自分に蓄積した有害物質を胎児に送り、母体は浄化される」という衝撃的事実を知った時のご自身の思いから始まり、科学的な根拠や実証とは違う視点によるお話や、「守るべきもののために自分が何かに気づいたらまずできることから始めて！」という言葉は、物凄い説得力で参加者に力をくれました。そして「今、人類・地球を守るための6つの原則(6L)」とはローカル・ローテクノロジー・ローコスト・ローインパクト・ロースピード・レディ(女性)」というお話は、快い音を立てて私の心に落ちていきました。そう「今までどおりで進んでいいんだよ」と肩をポンと叩かれたような。

遠藤明子

## 参加者からの感想をご紹介します

★特に印象的だったのは、エコロジーと女性の関係性についてでした。今までは知性、理性のみが全面に押し出され、道路整備、ハコモノなど作りすぎ、技術や化学、科学に頼りすぎていた。お陰で現在化学物質が地球上に溢れている。これからは限りある地球環境を守るために感性・感情などが必要とされているということです。女性は生理や出産などで均一な社会活動が出来ないけれども、これは自然のリズムであり、それに従って生きざるを得ない。しかし、そのことが逆に生態系などエコロジーにつながっている。地球規模でリズムが狂ってきている今は自然の声を聞けるということが重要になるのだということです。

★今まで何となく環境汚染について不安を感じていたので参加させていただきました。自分に今これからできること(ゴミを減らす、川を汚さないなど)小さなことからやっていきたいと思えます。色々考えさせられました。

★参加者の熱心さに驚きました。情報をたくさんいただいたので、整理し、もっともっと周りに目を向けないといけないと思いました。刺激的な時間を過ごさせていただきました。

★先生のお話がとても勢いがあって良かったです。元気をもらえました。

★化学物質の危険性について話していただきありがとうございました。

★トイレボール確認してみます。(学校で使われている様々な化学物質の話)

★実践に基づいた貴重なお話で非常に良かったです。日頃やって

いる事を(ローカル、ローテクノロジー、など)さらに徹底していきたいと思います。

★こういった機会を作ってくださいありがとうございます。さらに目を見開いて地に足をつけて惑わされず地道に動いていきたいと思う。

## 公開口頭審理レポート

6月20日(月)に町役場での公平委員会「公開口頭審理」へ傍聴に行ってきました。傍聴人は傍聴席いっぱいの25人。

これは去年、生涯学習課元課長が辞職したことについて、不服申し立てをしたものです。

アタゴ記念館(体育館)の古い畳を、寄居町柔道連名会長から川本市でいらなくなった畳がまだ新しいのでそれと取り替えないか、と持ちかけられ、町長からは了解済みという話を鵜呑みにして、決められた行政手続きをとらずに、畳を取り替えてしまったという些細な話。

この日は、退職を強要した学務課課長自身も手続き上責を追われかねないところを生涯学習課元課長一人の責にしてしまったのは、助役の意向があったということが見えてきました。

次回は9月1日(木)午後2時から。

加藤晶子

